PD3中間報告会

4EP4-35 鶴瀬 和輝

研究テーマ

YouTube動画の再生数を予測する

1

背景

・YouTubeは、2019年広告売上高150億ドル、月間アクセス20億人に達するほど、世界で最も普及した動画マーケティングツール

・再生数を増やすための施策が、日々多くのメディアでノウハウが紹介されている

(動画広告、セミナー、記事)

2

背景と課題

再生数を増やすための施策が、日々多くのメディアでノウハウが紹介されている

各取り組みによりどれだけ視聴回数を伸ばすことが出来るのか、定量データに基づいたノウハウ紹介は少なく、何が効果的か分かっていない

3

ゴール

YouTuber(動画クリエイター)にとって生命線とされる再生数を伸ばすために、どのような指標を心がける必要があるのかを知り、動画の再生数を予測できるモデルを構築する。

4

カラム名	説明
Video_id	動画ごとの一意のID
title	動画のタイトル
publishedAt	動画の投稿時間
channelId	チャンネルのID
channelTitle	チャンネルの名前
categoryId	動画カテゴリのID
Collection_date	データレコードの収集日
tags	動画に割り当てられたタグ
likes	高評価数
dislikes	低評価数
Comment_count	コメント数
Thumbnail_link	サムネイルのリンクURL
Comments_disabled	コメントが許可されていない
Rating_disabled	評価が許可されていない
describe	動画の説明文
y	再生数

アプローチ・方法

使用するデータ：
Probspace YouTube動画視聴回数予測
コンペティションのデータ

レコード数：19720
列数：17

5

アプローチ・方法

EDA(探索型データ解析)を行い、再生数を予測するのに効果的な特徴量を見つける。

以下の特徴量を用意
・dislikes(低評価数)、likes(高評価数)comment_count(コメント数)の四則演算等,log,二乗などのaggregation(集計)特徴量
・dislikes、likes、comment_countの予測数
・テキスト(channelTitle,CategoryIdなど)のaggregation特徴量
・テキストのtf-idf -> svd、doc2vec、tf-idf+t-sne
・Target Encoding
・テキストの中にkeywordあり、なしのbinary特徴量

6

アプローチ・方法

・モデリングでは、LightGBMという勾配ブースティングフレームワークを用いる

なぜLightGBMを使うのか？
・カテゴリ変数に対して特別な処理を自動的に実行してくれるので、One-Hotエンコーディングの手間を無くせる
・既存のデータセットを極力加工せずに利用するという観点で、特徴量エンジニアリングの負担を軽減してくれる

7

進捗状況

特徴量について
〇・データ収集。Probspace YouTube動画視聴回数予測コンペ
〇・収集したデータをEDA(探索型データ解析)を行う
〇・特徴量エンジニアリング
　・numerical data(dislikes, likes, comment_count)のaggregation特徴量を作成
　・text dataはtf-idf特徴量をsvd特徴量に変換、そしてaggregation特徴量を作成
　・Target Encoding
モデルについて
　×・シングルモデルでは、LightGBM、XGBoost、CatBoostを試す
　×・各々のモデルのパラメータ調整

8

今後の進め方について

・BERTを使ってテキストデータ(title, description, chanmelTitle, tags)の特徴徴出
・進捗状況でできていなかったモデリングを行う

9